

月報

# 岡崎の教育

1 月 号



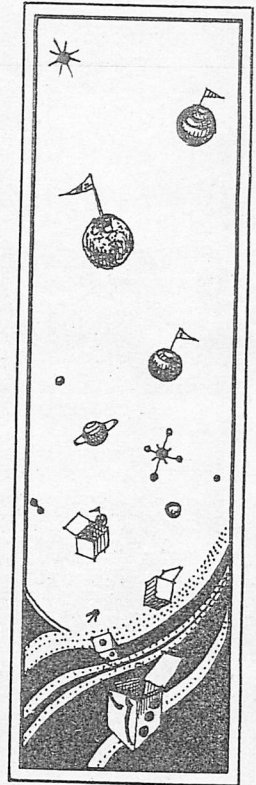
背筋力計の台に立つ  
「がんばれよ」と  
声援をうけて  
にぎった手を  
またにぎりしめる

背中の筋がつうんと張る  
腕から体中熱くなって  
耳がじいんとなる  
友だちの声も消えて  
くさがりが切れるまでひっぱった

(新記録への挑戦—梅園小)

昭和58年1月1日  
編集/発行  
岡崎市教育委員会

—教育随想—



はがき通信抄

藤井 實 應

毎月所懐をはがきに印刷し、知人あてに配布されたものの一部である。

●かぎらない、めぐみの中に新しい年を迎えることができました。生かされているこの尊い命を、どうか聖意に添うことのできるよう、共生きの道に精進いたしとうございます。

●無能上人は、「朝な夕な仏に向かう度ごとに、今をかぎりと思い励ませ」とお示しくださいました。

●私どもは、毎日、六時間ないし八時間（一日の三分の一）眠ることによって疲労も回復し、休まり、元氣も湧き出てくる。よく眠ってこそ、よく眼がさめる。就寝前の心が睡眠中にも大きな影響を与える。それゆえ、この睡時十念の、み教えの大切さが分かる。

●次々と用事が与えられる。これは、如来よりの教命と心得て、全力捧げて努め

るようにしている。働くことのできるのは、これまた大きな喜びである。

●恩師の、み跡を慕うて、できるだけ、やってやりぬく（やらしていただけ）。これも健康に恵まれておればこそ。そのような日は、特に安らかな眠りが訪れる。

●恩師のお手本の鏡があるので、どんなにやったとて、やったなどというような心地はせぬ。無理をすることはならぬのであるが、それを理由にして、あるいは身体や年齢にとらわれて、ともするとなすべきことを怠ろうとするのを自らに戒めている。

●人の心がすさむと、山川、草木、空気までがにごってくる。

●自我中心で利欲のためにむやみに樹木を伐採すると、ちよっとした雨で洪水となる。

●ハゲ山に樹木を植え、茂ってくると、

雷が鳴り、風雨よろしくなってくる。  
●人間にごってくる、天地が荒れ、天災地変も生じてくる。  
●天と地と人とは離れぬ関係におかれている。共生きをしているのである。  
●人が川の魚をとり、鳥や獣を獵する。魚も鳥も獣も人を見ると、すばやく逃げゆく。

●人が魚や獣に愛をこめてエサをやるようにしていると、人を慕い集まってくる。  
●欲をたくましくし、他の物まで奪おうとしている人は、却って奪われる。  
●与えようを与えようと心得ておる人は、かえって与えられる。

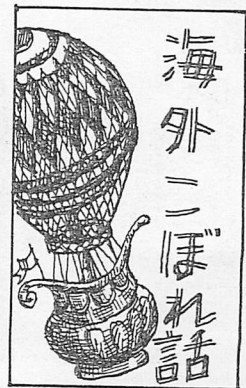
●悪口をいう人は、また、悪口をいわれている人である。  
●拝むものは拝まれる。拝まれる人は、常に拝んでいる人である。

●物も事も人も生かさうと心がけている人は、真に生きられる。  
●生かされて生き、生きて生かす、共生きの道。

●「らしく」ということばがある。青年は青年らしく、老年は老年らしく生きてゆくことだ。自然随順、法爾の生活でありたい。

●稲の葉は十分成長して、だんだん枯れてゆく。そのおかげで、稲の実りはますます充実して、生きてゆくのちとなる。  
●身意柔軟、やわらかいと弱いことではない。真のすこやかさであり、強いのである。

(知恩院管主)



海外こぼれ話

K先生へ

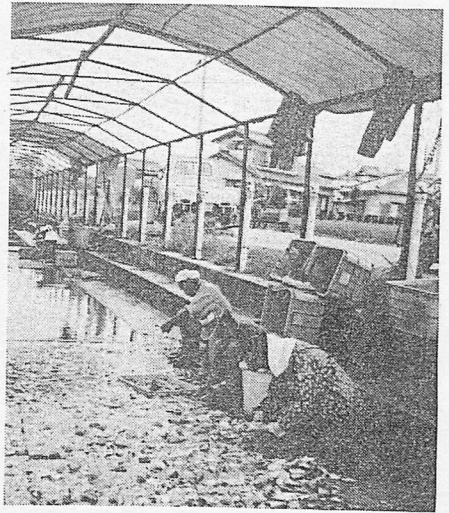
—ワシントンにて—

荻野 良 雄

こちらへ来てから一週間、分刻みの行動で全く余裕のない毎日です。それでも、はじめは旅行社の配慮もあつてか、少しは日本語の通用する場所もありました。東部へ移動してからはすべてが外国語となり、役立たない耳と、僅かばかりの単語知識だけが頼りのこのごろです。

特に自由行動のときは、言葉のハンデイが大きな負担になることがあります。

昨日も市内視察を終え、五・六人で夕食に出掛けたのですが、目的の場所に着けず、目にとまった看板につられて中華飯店に入りました。ところが、看板は漢字でも、中国人二世の店主には漢字すら通じません。メニューがよく理解できない我々の注文した食べ物は、思惑外れであったり、味が全く異っていたりでさんざんでした。中でも手真似混じりの片言でラーメンを注文した者など大きなボールにスープを入れ、スパゲティを浮べたものを出され、一同大笑いでした。それで



—ふるさとの山河—

矢作川 (10)

水利用(伏流水)

矢作川は、愛知県の西三河平野を貫流して三河湾に注ぐ天井川式の川である。多くの支流を持ち、流域市町村に、大きく貢献している。発電、農業用水、工業用水などによく利用されている。明治、大正時代には、下流に舟紡績がかかり、岡崎周辺の諸流域にも、水車によるガラ紡工業がおこった。発電は出力十七万kwに達している。農業用水としては枝下用水、明治用水が約十万haをうるおしている。工業用水は、大工場に多く利用されていて、伏流水の利用が普通である。

ところで、伏流水の利用であるが、私たちの身近な地域で変わった伏流水の利用がみられる。それは、大門の共同野菜洗い場である。伏流水の利用は普通、東レ岡崎工場、ユニチカのような大工場の工業用水として利用されると考えられるが、大門地区のように生活に密着して伏流水の利用がなされている場合もある。

この野菜洗い場のある付近では、三千年程前までは伏流水が自然にわき出ている。田んぼのいたるところで見られたという。水郷公園の池も、もとは伏流水のわき水によってできたものである。ところが、下流で砂利を採るため河床が下がりわき水がなくなってしまった。野菜洗い場のある所も、今では水郷公園からの用水路になっている。

野菜洗い場は写真のようになっている。上手から順に番号がつけられ、十二に区画されている。抽選で洗う場所を決めるとのことである。それは上手の方が水がきれいだからである。屋根がつけられ、日中の暑い時は日よけになり、雨の日は雨よけになるとのことである。簡単な施設であるが、村の人が共同でこうした施設を作り、野菜作りに励んでいるのは大門ならではのであり、大門地区が岡崎で有数の野菜作りの地区であることがわかる。

ところが近年、大門地区も宅地化し、この野菜洗い場で農家の人がいろいろな話をしながら、みんなで野菜を洗う姿が減ってきたと聞く。何となくさびしさをおぼえる。

矢作川近くの工場での伏流水の利用は、東レとユニチカがあげられる。三菱、フタバ、マルヤスなどの工場は伏流水を利用していない。また、矢作の石工団地、八丁みそ、マルサンみそも利用していないとのことである。

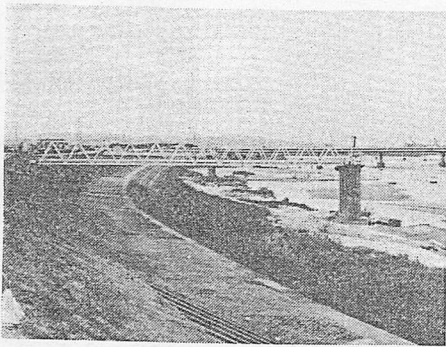
東レは一年に約六百六十万m<sup>3</sup>(昨年)の伏流水をくみ上げている。この量は、学校のプールの約二万倍にあたる。

(岩津中 高村 廣)

東レの伏流水のくみ上げ量

月	量
1	50
2	37
3	45
4	60
5	65
6	57
7	64
8	67
9	63
10	70
11	51
12	30

(単位 万m<sup>3</sup>)



日名橋上流の伏流水の取水塔

も当人は、英語が通じたと、ホテルへ帰ってからしばらく自慢していました。明日は南部へ移動し、また学校訪問が始まります。(美川中)

若がい

富田典子

やおやおじさんが韓国を旅行したら、若くなって帰ってきたという話を聞いたことがあった。韓国の旅も終わりに近づいたころ、やっとそのわけがわかった。

慶州は仏国寺。ここでガイドさんが言うには、「この山からわき出る水は、たいへんよろしい。一口で、十年若がえる。私もここへ来るたびに飲んでる。」とのこと。日本で言えば御手洗のような所で、たくさんの方がここにこしながら水を飲んでる。それにガイドさんは元教師というから、うそはつくまい。

それなら、私は三分の一口くらい飲めばいい計算だ。でも、せっかくの水がきかないといけない。ひしゃくに一ぱい飲んでみた。どおつてことない味だ。気のせいか足取りも軽く仏国寺の見物をした。新羅仏教芸術の粹という、赤、青、緑の美しい寺。このお寺なら、若く美しくなれるはず。

さて、バスに乗ると体がシクシクしてきた。いよいよ薬がきいてきたらしい。それに目的地は山の上。ぐにやぐにや道を右へ左へ。ああ、若がえるって苦しい。

(生平小)

# 三河万歳



39

三河万歳の起源は走かではない。万歳そのものは洛中洛外凶屏風にもみられ、相当古い。

江戸時代、徳川家康の庇護を受けて、元旦には江戸城に招かれて門開きをする。また、諸大名の屋敷にも伺候するのが恒例で、名字帯刀も許されるほどの格式であった。そのため、御殿万歳といわれている。

わたしたちは、第十回教育文化賞を受賞した岡崎市で唯一の三河万歳保存会のある奥山田町を訪れ、山本森雄会長、市川清家元、保存会の方々から取材した。

創始者は市川金一郎さんら四名。田舎で娯楽の少なかった明治末期に、知多の女万歳師を招いて覚え、祭礼や正月などめでたい行事の時、上演したのが始まり。現会長は三代目。会員は総勢十一名。週一回、公民館で練習をしている。楽しい思い出は、昭和二十三年の正月に東京へ行き、門を回って三河万歳を披露したとき、これは縁起が良いとかなりの祝儀を包んでくれたことをまず挙げられた。

今年度より細川小学校に郷土芸能クラブが発足し、継承者の層は厚くなっていることなど、熱っぽく話された。振り付けをし、鼓を打ちながら、熱心な練習が再開した。

「ヨーオツ、ヨーオツ」

「へへへ、ホホホ、へへへ、ホホホ、へへへ…」

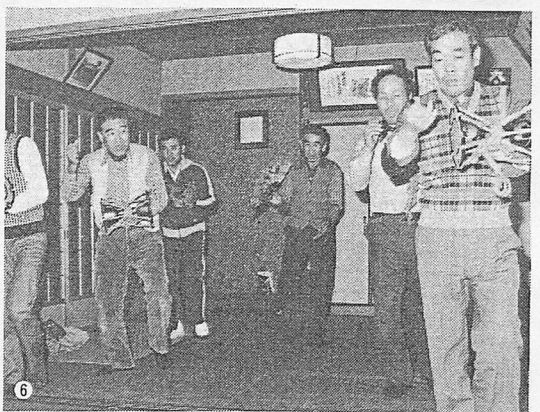
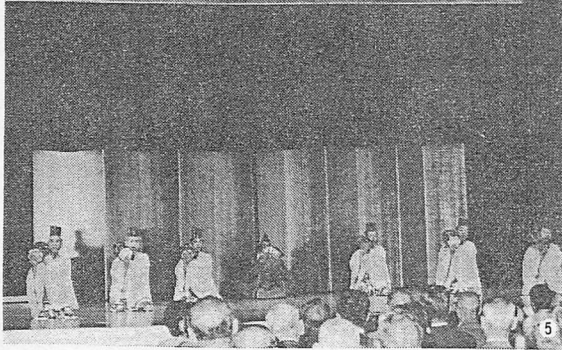


## 御殿万歳より 正月の舞—抜粋—

- おめでたいじやござます
- 陰陽 鶴は千年
- 亀は万年も御祝申す
- 千代も重ねて
- 万年の御祝申す
- 陰陽 悪事災難はこれを見て
- 七里遠くへ逃げたもう
- 福の神は皆々様入り万歳候らえんは  
さてこそや この御家
- 正月のことなれば
- 恵比須棚のまん前に歳の神を祭る
- 祭る神の供物<sup>ともぎ</sup>にしては  
袖に杵子に櫓が
- オヤたちはな
- 甘千の串柿<sup>くわじ</sup>なんぞを相ぞえて祭る
- 印は宮屋<sup>みやや</sup>根にはほんだわび
- 東山のこころもたなら
- 西山のかみゆ 浅間が山のうらへんじゆ
- 熊野様のゆずりの葉
- 姫子に小松にゆきこいしじ
- 松や竹をば にぎやかに歳の神を祭る
- 正月の日はまた
- それそれこの姉さん連や 子守の衆
- 手まりのひまうしがストロトト
- ひ(や)ふ(や)み(や)み(や)や(や)や(や)や(や)
- こ(つ)つ(つ)あ(つ)つ(つ)な(つ)な(つ)や
- 十二の事無(つ)か(つ)い(つ)
- 西の宮より御大将が参る

(○…大夫 ●…才造)

### 祝 岡崎市竜美丘会館本館竣工式



### 第28回 岡崎市子ども会大会



- ① 昭和五十七年度新年交礼会で新春を寿ぎ御殿万歳を舞う三代目メンバー。村積神社秋の大祭に三曲万歳を奉納した初代。(昭和二十二年)
- ② 二代目メンバー。第二次世界大戦に従軍し、全員戦死された。
- ③ 村積神社秋の大祭に御殿万歳を奉納した三代目。(昭和二十二年)
- ④ 四代目メンバーの初舞台、竜美丘会館本館オープンのアトラクション。毎日曜日、夜の練習風景。三代目の指導を受ける四代目。
- ⑤ 練習用鼓はぼくらの手づくりで、細川小郷土芸能クラブ員。
- ⑥ 岡崎市子ども会大会で御殿万歳を披露した細川小ちびつ子万歳師。
- ⑦
- ⑧

# 教育日々



### 素直な表現をめざして

緑丘小 金沢 君代

表現運動と恥ずかしさとの関係は極めて深い。子どもの心が解放され、自分を透明にして初めて生き生きとした表現が生まれ、楽しみがふくらんでいくのである。それは、いったん解放された子どもの想像力や動き(表情)の豊かさを見れば、学習者の心の持ち方がいかに学習を大きく左右しているかがわかる。

五年生の私のクラスでも、他人の目を意識して思うように動くことができなかつた。そこで私は、恥ずかしさを取り除くことから指導していった。

#### 一、動きづくり

走—止—走—止—走—止。このような運動を連続させ、止まった時に三つとも違った形でポーズをとる。(伸縮は、極限まで運動をさせた。)



#### 二、模倣遊び

鏡遊びとも言われ、友だちと向かいあい模倣しあうのである。慣れるにしたがい、友だちとのかけ合いで動くようにした。

#### 三、先生と一緒に踊る

音楽にのって動くことは、人間だれもが共有する快きである。そこで、題材にふさわしい基本の動きをリズムミカルな曲に合わせて踊る。最初は、先生の動きばかり見ていた子ども、夢中になつてくると隣りの子と声をかけあつて踊るようになる。曲の終わりには「ワーツ」と歓声にも似た声が聞こえた。

この三つの方法を終えた頃は、「今度のダンスは何やるの。」と男の子がその時間を楽しみに

するようになってきた。しかし、これだと思つたわけではない。すぐになつたわけではない。すぐに創作に入つてしまうと、動きの種類が乏しいため、どの子どもにもいきづまりを感じてしまう。そこで、毎時間の最初の五分間は、動きづくりやリズムミカルな曲に合わせて踊る訓練を続けてきた。

二学期になると、自由に動けるだけでなく、友だちと批評しあつて新しい動きを発見できるようにもなり、仲間意識も育つてきた。

今は、さらに表現力を高めるために自然観察をし文章化する事で、表現するもののイメージを深めるよう努力している。

### 心のおくりもの

恵田小 林 和泉

「先生、ぼくもつても恥ずかしかったよ。」

Y男もやっぱり心にかかつていたのである。Y男以上に私自身が、気にしていたことなのだが。

六年生が心待ちにしていた修学旅行第一日目のことである。

バスで平等院へ出発という時同乗のB校の代表の子が、バス

ガイドさんに、

「お世話になります。」

といつて花たばを贈っているのである。うちの子の方は、何の用意もしてきていない。

「先生教えてくれんもん。」

と、不満顔のS男のことばが痛い。そこまで気のつかない自分を恥じる。S男の反省記録に、

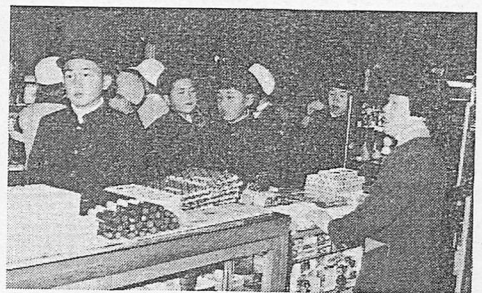
B校の子がガイドさんに

花たばを渡しているのを見て、ぼくたちの学校が花の用意をしてこなかったのは先生のせいだと思ひました。先生が教えてくれなかつたからです。その日一日、ずっと夜寝る時までそう思つていました。夜、一日の反省をした時、その考えはまちがつていると思ひました。

ガイドさんは、ぼくたちのために説明をしてくれるのです。そのお礼は、自分たちが気付かないといけないと思ひました。

来年の六年生には、もつとよく教えてあげて、ぼくたちの花のことみたいに恥をかいてもらいたくはないと思ひました。

ちよつとした不注意が、子ど



もの心に思つたよりも大きな重みをもつて残るものだということを強く感じさせられた。

旅行から帰つた次の日のことである。子どもたちは、同じ組の五年生へ(このクラスは五年生の複式学級である。)思ひおもいの土産を買つてきていた。私から話したわけでもないのに、残してきた後輩を思い、六年生全員が何らかのものを買つてきて、五年生の一人ひとりに渡しているのを見た。

この土産の中には、あのバスでの体験(人への思いやり)が深くきざみ込まれているに違いない。

子どもたちの心のぬくもりを感じ、うれしかった。



サツマイナモリ(アカネ科)

# 大きな反響と手応え

## 世界子ども美術博物館の資料収集活動

### ◆見知らぬ人からの小包

つい先日、一通の小包が準備委員会の手元に届いた。差出人に見覚えがない。開けてみると、二冊のファイルに一通の手紙が添えてある。横浜市に住む千田高詩とあり、氏がユニークな感覚で推進している造形活動「創造のアトリエ」や「明日の美術館を求めて」の様子がそれぞれのファイルに丹念に整理されている。今、準備委員会が進めている「世界子ども美術博物館」の構想・企画に共鳴し、何かの役に立てばとわざわざ送ってくれたものである。

手紙を拝見してわかった。去る六月、愛教大の市川晃教授、杉田富貴男校長、古橋睦典指導主事の三人で東京品川の原美術

### 【寄贈刊行物・資料等】

◆羽根っ子の四季 羽根小学校

B5 一四四頁

◆ともに励まし合って伸びる子ども育成 — 心のふれあい

を求めて — 本宿小学校

B5 六三頁

◆地域で育てる教育の運営

B5 九四頁  
岡崎市小中学校教頭会  
◆大きな夢 — 創作曲集 —  
現職教育音楽部

B5 七八頁

◆岡崎のハーモニー — 10年の歩み —  
現職教育音楽部

変型B4 四〇頁

館見学のおり、そこに置いてきたたった一枚の名刺が今回の縁につながったのである。

◆昭和初期の児童画の寄贈

ユネスコ美術教育連盟理事長の甲斐浩氏が去る十一月三日、造形おかざきつ子展参観のおり、現在では極めて貴重な昭和初期の児童画二百七点を世界子ども美術博物館へ寄贈してくださいました。ユネスコ美術教育連盟は毎年世界の児童画展を開くなど、子どもを絵を通じて世界各国と交流して、収蔵作品も百二か国、数千点に及ぶと聞く。

甲斐氏は、それら収蔵品の一部を世界子ども美術博物館へゆずりたいとの意向もあり、嬉し

い限りである。

◆一市民山本さんの厚意・支援

明大寺の山本勝三郎さんが、このほど台湾から作品が届いたと早速準備委員会へ持ってきてくださった。見れば、選り抜かれたすばらしい児童画百点と習字六十点である。一市民の親身のご支援に感激した。

準備委員会は大きな夢、大きな目的を抱いて、世界子ども美術博物館の建設と作品・資料収集活動を進めている。各界各層のご支援に確実な手応えを感じつつ、一層意気に燃えてこの仕事にあたっていきたい。

◆一月の研究発表表

●岩津小学校 一月二十一日(金)  
「基本的事項の定着をめざした算数教育」 — 表現活動操作・書く・対話 — をおとして

●根石小学校 一月二十八日(金)  
「望ましい読書指導の探究」 — 進んで読書し自ら心を耕

◆自ら考え正しく判断する力を育てる — 問題意識をもつ授業づくり —  
東海中学校

B5 一一四頁

◆ふれあいの記  
東海中学校

B6 一一九頁

◆九十年史  
矢作中学校

B5 七五頁

しつづける子の育成 —  
優良子ども銀行表彰

優良子ども銀行として岩津小学校子ども銀行が大蔵大臣・日本銀行総裁より表彰を受けた。

◆中学生人権作文コンテスト  
最優秀賞 香山中二年 清水雅子  
優秀賞 矢北中一年 石川智子

◆中学生の税に関する作文  
特賞 岩津中三年 大田康子  
金賞 甲山中三年 杉山幸嗣

◆岡崎市自作TP作品五十一点入選  
昭和五十七年度の岡崎市自作TP作品は、小学校四十一点、中学校十点が入選と決まった。入賞者は次の通り。

〈小学校〉  
▽国語 山中武(広幡) 稲葉道彦(連尺) 小池剛、渡辺智枝(

矢作北) 小栗春枝(愛宕) ▽社会 石原康子、奥野真(二細川) 明保恵子(三島) 太田新史、本沢寿美子(大樹寺) 吉見孝仁(矢作西) ▽算数 浦野洋二(細川) 嶋崎勝(広幡) 山上直之(梅園) 彦坂はるみ(大樹寺) 平野泉(矢作西) 杉浦伸二(六ツ美南) 河上真一(本宿) 犬塚尊夫(井田) 八田敏公(連尺) ▽理科 高橋啓三、伊藤友隆、芳野腴、岡本知子(大樹寺) 権田茂喜(愛宕) 奥平辰弥(三島) ▽音楽 白井絃子(羽根) ▽図工 柴田弘子(大樹寺) 加藤直男(愛宕) ▽家庭 藤井明美(三島) ▽道徳 長神ゆかり(細川) 松平尚子(大樹寺) 鈴木充子他一(細川) 竹内春美他一(本宿) ▽特活 谷川光代(三島) 斉藤朋子、石川敬子他一(細川) 小栗浩子(岩津) 佐野佳三(愛宕) ▽保健 竹内順子(細川) 三木世紫枝(広幡) 〈中学校〉

▽社会 山田贊平(福岡) 高木和広(美川) ▽数学 近藤博之(福岡) 杉山隆之(常盤) 内藤広光(矢作北) ▽理科 後藤晶基(矢作北) ▽美術 山本健治(福岡) ▽保健 伊藤直也(矢作) ▽技家 渡辺絵意(矢作北) 神谷知里(福岡)

▽進んで読書し自ら心を耕



所在地—岡崎市宮地町

## 大久保氏一族発跡地碑

宮地町の東北に比蘇天神社という、大きくはないが由緒のある神社がある。この境内には石碑が三つある。その中で最も大きいのが、この「大久保氏一族発跡地」の碑である。この碑はもともと上和田の説教所にあつたもので、新道を通す時に移転したものである。碑文は地元議員早川龍介氏の筆により、大久保氏が関東からこの上和田の地に移り、城を構え、松平三代信光に仕えて以来の業績をたたえている。

永禄六年から七年。松平の家臣団が、真二つに分かれてた

かった三河一向一揆。その最前線基地は何といつても、この上和田城であった。永禄七年正月上和田合戦では、一揆勢八百余人に対して砦には大久保氏三六騎他わずかが迎え討ち、一族ごとく傷を負わぬものはなかつたという。なお、この時彦左衛門は五つ六つの幼児であった。神社のすぐ北方には、かなり最近まで城の堀が村持ちの堀として残っていた。事情があつて埋め立てられた。野村さんというお宅の屋敷内をのぞいたら、「和田城用心塚跡」という石碑が据えてあつた。

● カット

広幡小

山中

武

## この本を

- 小林勇文集(一) 小林 勇 筑摩書房 2,600円
- 家という病巣 山田和夫 朝日出版社 1,000円
- 海 嶺(上下) 三浦綾子 朝日出版社各 1,200円
- 積木くずし 穂積隆信 桐原書店 980円
- 古今・新古今集の花 松田 修 理論社 980円
- 子供をダメにする学校給食 内海正彦 白楊社 1,300円
- 芸話 おもちゃ箱 中村翫右衛門 毎日新聞社 980円
- 退屈な午後 渡辺淳一 毎日新聞社 880円
- へんくつの発想 高橋義孝 新潮文庫 320円
- 大村はま国語教室(第一巻) 大村はま 筑摩書房 3,400円

「お正月には、風あげて、独楽を回して遊びましょう。」素朴な歌を口ずさむと古きよき時代を思い出す。今はこたつにもぐってテレビを見る。一日三時間、三十二年間続けてテレビを見ると白血病になる恐れがあるときいた。食生活もかむことを忘れたようである。今年こそ健康な環境を、考えてやりたいと思う。

静まりかえった夜明け前。

静寂を破り前の道を通り行くものは新聞配達と牛乳配達の自転車。ペダルを踏みブレーキをかける音。しばらくするとそれがモーターバイクや自転車に変わった。今では、ジョギングをする人、ゲートボールにでかける人たちも加わりたいそう賑やかな夜明け前である。



あけましておめでとうございます。一九八三年のスタート。希望と期待を胸に、目標を高く掲げて、この新年に期したい。人生はやり直しができない。今年こそは」と意気込み、子どものため、教師としての自分のために、この一年に挑戦、勝負したい。子どもらの多幸を祈りつつ……

すばらしい郷土芸能「三河万歳」の取材に日曜日の夜、奥山田の公民館を訪れる。真剣な練習の姿、伝承への心意気に心打たれ、敬服する。師匠の口伝え練習から、今日では台本録音テープ、個人練習はカーステレオの利用へと変わっている。

伝承文化、再認識のひとときであった。